



基調講演

東京

大阪

オンライン

橋本 雅博

中央教育審議会 会長、
住友生命保険相互会社 取締役会長・代表執行役

プロフィール 東京大学経済学部卒業後、住友生命保険相互会社入社。2014年より代表取締役社長、2021年より現職。2017～2018年一般社団法人生命保険協会会長。教育関係では2021年より日本経済団体連合会(経団連)教育・大学改革推進委員長として教育に関する様々な政策提言活動を行う。文部科学省中央教育審議会では2023年より副会長、2025年より会長を務める。ほか国立大学法人評価委員会委員長、日本芸術文化振興会評議員等に就任中。

メッセージ 講演タイトル「教育で日本の未来をつくる ～社会の変化と教育の役割～」

教育は未来を築く基盤です。特に高等学校における教育は、若者が自らの可能性を探索し、次世代を担う人材としての資質を磨く成長のステージです。変化と革新が激化する現代社会において、教育には単純な知識の蓄積に留まらず、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力の修得が期待されています。同時に、教員の役割にも変化が求められています。これまでのティーチングによる教育主導から、生徒の探求心を引き出し、主体的な学びを促進するファシリテーターとしての役割も求められます。誰もが個々の多様で豊かな可能性を開花させ、ウェルビーイングな社会の実現に向けて、あるべき教育の姿と方策について探っていきます。



特別講演②

東京

大阪

オンライン

松尾 豊

東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻／
人工物工学研究センター 教授

プロフィール 1997年東京大学工学部電子情報工学科卒業。2002年 同大学院博士課程修了。博士(工学)。産業技術総合研究所研究員、スタンフォード大学客員研究員を経て、2007年より、東京大学大学院工学系研究科准教授。2019年より、教授。専門分野は、人工知能、深層学習、ウェブマイニング。人工知能学会からは論文賞(2002年)、創立20周年記念事業賞(2006年)、現場イノベーション賞(2011年)、功労賞(2013年)の各賞を受賞。2020-2022年、人工知能学会、情報処理学会理事。2017年より日本ディープラーニング協会理事長。2019年よりソフトバンクグループ社外取締役。2021年より新しい資本主義実現会議 有識者構成員。2023年よりAI戦略会議座長。2024年よりAI制度研究会座長。2024年より一般社団法人AIロボット協会理事。

メッセージ テーマ「生成AI・ICTの活用」

2010年代以降、ディープラーニングの実現や生成AIの出現によって、AIの性能は急速に向上してきました。足元では自律的に複雑なタスクを設計・実行できるAIエージェントの開発が進み、さらに人間と同等以上の知能を持つAGI(汎用人工知能)が2030年までに実現するという観測もあり、AIが今まで以上に社会で幅広く使われる時代がやってきます。松尾研では、基礎研究の成果をもとにAIを学べる講座を広く学生に提供し、有望な学生にAI導入を企図する企業との共同研究の機会提供、さらにはAIでの起業を促すことで、若者が社会で活躍できるエコシステムを作っています。同様に、これから社会に出ていく高校生には、AIを学んで起業する選択肢を用意するなど、変化を起こせる人材になってもらいたいと考えています。松尾研の取組も踏まえ、学生、学生を導く教員の方にも有益な、AIを学ぶ道筋をご紹介します。



特別講演①

東京

大阪

オンライン

片柳 成彬

文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室 室長

プロフィール 2006年早稲田大学法学部卒業。2006年文部科学省入省。福井県教育庁教育政策課長、高等教育局私学部私学助成課課長補佐、初等中等教育局初等中等教育企画課課長補佐、高等教育局国立大学法人支援課課長補佐を経て、2024年7月より高等教育局大学教育・入試課大学入試室長。

メッセージ 講演タイトル「令和8年度選抜に向けて(前年度を振り返りながら)」

令和7年度の大学入学者選抜は新しい学習指導要領の内容を学んだ生徒達が初めて受験することとなり、大学入学共通テストも大きく変わる年でもありました。こうした内容を振り返りつつ、個別大学の入試にも大きな影響のある令和8年度の大学入学者選抜実施要項の変更点について、その議論の経緯なども含めて詳細を説明します。実施要項を遵守いただくのは当然ではありますが、生徒や学生のためを考え、高校・大学関係者の思いのつまったルールとなっておりますので、込められた思いも御理解いただき、皆にとって良い入学者選抜が行われることに期待しております。



特別講演③／英語

東京

大阪

オンライン

安河内 哲也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 中学生から社会人までの英語力を劇的に向上させることで定評がある。著作の累計は350万部超。検定教科書「My Way 論理表現」代表著者。各種教育機関や、試験機関において、講演や監修等の業務を行っている。また、文部科学省や東京都の英語教育関連審議会の委員も歴任。iU情報経営イノベーション専門職大学客員教授。米国政府認定NPO英語評価学会理事。多くの中学・高校の顧問としてActive English Programを実践。

メッセージ 皆さん、生成AIを活用していますか？生徒たちよりも、まずは自分が活用することが大切です。今回は生成AIを活用して魅力的な授業素材を作る方法や自分自身が英語を勉強する方法をたっぷりシェアします。いままであまり使ったことがない方でもわかるように初心者向けの内容とさせていただき、すぐに授業で使える技をたくさん紹介します。この1年、言語教育の世界は、生成AIによって様変わりし、シンギュラリティを越えたと言われていています。では人間は何をやれば良いのか？この講座で見えてくると思っています。他教科の先生もAIに興味があればご参加くださいな。



数学

東京

大阪

オンライン

堀内 陽介

千代田中学校・高等学校 教諭

プロフィール 2008年度より広尾学園で探究的な数学教育を実践し、医進・サイエンスコースの立ち上げや研究活動の指導、反転授業の設計などに携わる。2024年度より現職。現在は、前職の経験を発展させ、生徒達が自ら学びたくなる数学教育を模索している。リクルート『キャリアガイダンス』や教育と探究社『学びとビーイング』などに寄稿。

メッセージ 未来は予測するものではなく、構想し、みんなでつくるもの。未来が予測不能な時代。上記のように思えば、今やるべきこと、やれることが見えてきます。生徒たちが「自分たちで未来をつくるんだ」と思ってくれるために我々教員ができることは何でしょうか？講演では、これまでの前任校での実践を発展させ、現任校で行っている数学の授業、研究活動などの教育活動の実践をお話します。数学に対して苦手意識を持つ生徒たちが大半の中で、数学を学ぶことに前向きになり自ら数学を学びたいという声が聞かれるようになっていきました。共通テストや新課程入試で問われることもここに集約されています。今後の授業設計などのお役に立てれば幸いです。



探究

東京

大阪

オンライン

蛭田 祥友

横浜市立南高等学校 主幹教諭

プロフィール 横浜市立高校3校で英語教師として勤務したのち、2018年に母校でもある横浜市立南高校に着任。現在は国際企画部(校務分掌)の主任として、スクールミッション「社会課題を解決できるグローバルリーダーの育成」の実現に向けチームを牽引している。エッジの効いた問い、小気味よいトーク、独創性と発想力が持ち味。卒業生の「先生のテストは難しいけど楽しかった。めちゃくちゃ考えさせられた」というコメントはお気に入り。

メッセージ 横浜市立南高校のカリキュラムや取り組みを紹介させていただきます。附属中学を併設しているという点でみなさんの学校とは異なるかもしれませんが、伝統的な普通科進学校でもできる探究事例を共有させていただければと考えています。当日は現役の3年生と卒業生にも登壇してもらう予定です。現役生には現在も進行中の地域と協働した実践を、卒業生には中高の探究的な学びがその後の進路にどのように繋がっているかについて発表してもらいます。探究の進め方について日々悩まれていらっしゃる方も多いかと思います。本校の探究活動を共有させていただくことでお役に立てれば嬉しいです。オフレコな質問などはぜひ交歓会でお待ちしています。



国語

東京

大阪

オンライン

辻 孝宗

西大和学園中学校・高等学校 教諭

プロフィール 1975年生まれ。岐阜県出身。西大和学園では、東大古文講座を10年以上持ち続け、生徒の東京大学進学をバックアップしている。100人規模で実施されるその授業は、あまりの人気から立ち見の生徒が続出するほど。楽しいだけでなく、最小限の努力でつねに学年をトップレベルへと導く授業は、生徒だけでなく教員からも大きな支持を得ている。毎年、新しいスタイルで授業が展開されることから、久しぶりに見に来た卒業生が「自分たちが受けた授業とまったく違う!」と驚きの声をよく上げるという。最近では、学外からの要望を受け、「古文の面白さ」を伝える一般向けの講演も行っている。主な著書に、『一度読んだら絶対に忘れない 国語の教科書』『一度読んだら絶対に忘れない 文章術の教科書』(以上、SBクリエイティブ)がある。

メッセージ 「古文不要論」が叫ばれる現代、なぜ古文を学ぶのでしょうか。その意義を、私は現代の言語活動を豊かにすることにあると考えています。古文は、単に過去の言葉を読み解くだけでなく、論理的な文章読解力を養うためにも役立ちます。古文を通して、私たちは、相手の時代背景を理解し、相手の立場に立った思考を深めます。さらに、時空を超えて他者の感情を理解しようと努める過程で、一方的な自分の感覚で相手を理解するだけでなく、相手の文化に立って、表面に現れない相手の思いを汲み取る力を培います。このように考えると、国語を学ぶことは、「やさしさ」を学ぶことに他なりません。この「やさしさ」こそ、現代社会に最も求められる力であり、古文学習が提供する真の価値であると信じています。



情報

東京

大阪

オンライン

能城 茂雄

東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭

プロフィール 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程情報システム学専攻修了(工学修士)。GIGAスクール構想という言葉が生まれる以前(平成28年度)から、一人1台端末の運用・研究活動を行い、現在も情報関係研究指定校の主担当として活動が続ける。文部科学省学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者(共通教科情報)として、学習指導要領、同解説に作成に関わり、文部科学省高等学校情報科「情報I」「情報II」教員研修用教材検討委員、同WG委員も務めた。

メッセージ 2025年の共通テストに「情報I」が登場し、いよいよ情報科の重要性が社会的にも広く認識される時代となりました。本講演では、東京都立三鷹中等教育学校での1年間の授業実践をもとに、知識の習得にとどまらない、生徒主体の学びをどう育んできたかを紹介します。コンピューティング・プログラミング・ネットワーク・データの活用などの各領域で、一人一台端末とクラウドを活用しながら展開した授業の工夫や、生徒の変容、現場で感じた課題も含めて共有します。情報科のこれからをともに考えるきっかけとなれば幸いです。

講演者プロフィール・メッセージ

7.3 現在
敬称略



8.4 ⑤ 大阪会場

13時～ スイスホテル南海大阪 [8F]



基調講演

東京

大阪

オンライン

合田 哲雄

文化庁 次長、兵庫教育大学 客員教授

プロフィール 70年生。岡山県倉敷出身。92年に旧文部省入省。福岡県教育庁高校教育課長、NSF（全米科学財団）フェロー、文科省高等教育局企画官、同初等中等教育局教育課程課長・財務課長、内閣府・審議官などを経て現職。学習指導要領改訂を二度担当。公立小・中PTA会長を6年。単著に『学習指導要領の読み方・活かし方』、共著に『学校の未来はここから始まる』、『探究モードへの挑戦』等。

メッセージ 講演タイトル「Diversity with Qualityと高校教育」多様性と学びの質はトレードオフだというバイアスのなかで、私たちは多様性を排し、同質性のなかで子どもたちを競わせることが学びの質を高め、生徒の人生を保障する道だと信じてきました。しかし、そのような競争が生む勝者と敗者の分断や多様な適性の切り捨ては、尊厳を踏みにじり、多様性が不可欠な知的・文化的創造を阻んでいます。学力調査のCBT・IRTがトリガーとなって同一問題の紙の客観テスト万能主義が相対化されると、生徒が探究や創造などに取組む多様な学びの番で、大人は本気で伴走しパフォーマンス評価に真正面から向き合わねばなりません。単元における「本質的な問い」や重要な概念を軸にしたシンプルな学習指導要領、裁量的な時間の設定、学びの個性の確保が中教審で議論されている今、高校教育の未来について考えたいと思います。



特別講演②

東京

大阪

オンライン

遠藤 太一郎

東京学芸大学 教育支援協働実践開発専攻(大学院教育学研究科)教授、株式会社カナメプロジェクト 取締役 CEO

プロフィール AI歴28年。数百のAI、データ活用、DXプロジェクトに携わる。18歳でAIプログラミングを始め、米国ミネソタ大学大学院在学中に起業。その後、AIスタートアップのエクサウィザーズに参画し、技術専門役員としてAI部門を統括。5年で400人規模までスケールし、上場。現在は3社めとして、AIとWeb3を主軸に添えた事業を株式会社カナメプロジェクトで展開している。国立東京学芸大学教育AI研究プログラム教授として、教育へのAI活用にも注力。国際コーチング連盟ACC。

メッセージ 講演タイトル「生成AIが拓く“学びの近未来”～2年半の現場実践が語るリアル～」2022年11月にChatGPTが出て以来、約2年半以上に渡り、教育現場に生成AIを取り入れる実証研究を数多く行ってきました。生成AIを用いることによる、教員の学びのリフレクション支援、児童生徒の学習成果の分析による次期授業の指導案作成支援、児童生徒の記述回答の評価支援、児童生徒の対話からの非認知能力の評価支援、学習指導要領のルーブリック化、前記のルーブリックによる多教科にまたがる児童生徒の記述の評価支援、大人数受講講義(1000名程度)におけるフィードバック支援、授業動画に質問できるシステム、探究学習における伴走者の支援、などはその一例です。これらの結果から見てきたことや、そこから垣間見える教育の未来等に関して考えていきます。



特別講演①

東京

大阪

オンライン

片柳 成彬

文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室 室長

プロフィール 2006年早稲田大学法学部卒業。2006年文部科学省入省。福井県教育庁教育政策課長、高等教育局私学部私学助成課課長補佐、初等中等教育局初等中等教育企画課課長補佐、高等教育局国立大学法人支援課課長補佐を経て、2024年7月より高等教育局大学教育・入試課大学入試室長。

メッセージ 講演タイトル「令和8年度選抜に向けて（前年度を振り返りながら）」令和7年度の大学入学者選抜は新しい学習指導要領の内容を学んだ生徒達が初めて受験することとなり、大学入学共通テストも大きく変わる年でもありました。こうした内容を振り返りつつ、個別大学の入試にも大きな影響のある令和8年度の大学入学者選抜実施要項の変更点について、その議論の経緯なども含めて詳細を説明します。実施要項を遵守いただくのは当然ではありますが、生徒や学生のためを考え、高校・大学関係者の思いのつまったルールとなっておりますので、込められた思いも御理解いただき、皆にとって良い入学者選抜が行われることに期待しております。



特別講演③／英語

東京

大阪

オンライン

武藤 一也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 基礎から東大レベルまで、生徒のニーズに応え、やる気を引き出す授業に定評がある。全国各地で公開授業を年間100回以上行う。英語学習は「正しく。楽しく。」、授業は「切り口と見せ方」「適切な問いかけ」が信条。模試作成、参考書執筆も手がけ、「共通テスト英語リスニングドリル(東進ブックス)」、学校採用品の「Reading Flash(桐原書店)」など著書多数。英検1級。TOEIC試験4技能(LRSW合計)1390点満点。Cambridge CELTA Pass Grade A(CELTA合格者の上位約5%)。

メッセージ 私は授業では常に「切り口」と「見せ方」を意識しています。同じ教材でも、工夫次第で授業の印象と効果は大きく変わります。授業中は、生徒の発話を促す「問いかけ」を重視しています。問いかけはセンスではなく、技術です。模試作成やCELTAを通して得た技術をご紹介します。授業準備には生成AIを活用していますが、それにより「切り口」と「見せ方」が一層重要になっていると感じています。AIを取り入れた授業準備について、実践的な手法をお伝えします。最後に、AIの進化が進む今、英語を学ぶ意義についてもお話できればと思います。



数学

東京

大阪

オンライン

喜田 英昭

広島大学附属中・高等学校 教諭

プロフィール 1975年生、福岡県出身。2000年に広島大学大学院教育学研究科教科教育科学専攻を修了。2001年より広島大学附属中・高等学校にて勤務。現任校で25年目をむかえ、発展的・探究的な教材の開発、SSHでの課題研究指導、統計的な見方・考え方の育成など、主に高校数学での授業研究を行っている。『多角数、横から見るか？縦から見るか？』(教育科学/数学教育、2023年10月号No.792)、教師教育講座第14巻中等数学教育(小山正孝編)第9章『高等学校「幾何」内容の学習指導』などを執筆。

メッセージ 令和7年度大学入学共通テスト「数学」の問題作成の方針は「数学の問題発見・解決の過程を重視する。事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだすこと、解決の見通しをもつこと、目的に応じて数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて処理すること、及び解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり、活用したり、統合的・発展的に考察したりすることなどを求める。」とあります。私たちには、学習者が目の前の数学と対話しながら主体的に学び、解決過程を振り返ることで理解を深めたり、新たな数学的性質を発見したりするような、「数学を探究し、数学を発見し、数学を創り出す」授業が求められます。この数学科会では、この目的に沿った授業につながる教材と一緒に学び、これからの教材研究に少しでもお役に立てればと考えています。



探究

東京

大阪

オンライン

酒井 淳平

立命館宇治中学校・高等学校 教諭

プロフィール 立命館宇治中学校・高等学校 数学科教諭。2008年度から立命館宇治中学校・高等学校でキャリア教育部の立ち上げを行う。2018年度文科省研究開発学校、2019年度から文科省WWLの指定を受けながら、探究×キャリア教育を大切にしたい総合的な探究の時間のカリキュラム開発に挑戦。著書に「探究」の現在地とこれから 高等学校 探究時代のキャリア教育と教科学習のデザイン」「高等学校新学習指導要領数学の授業づくり」など。

メッセージ 「探究をやっているけれど、これでいいのか?」「もっと生徒の主体性を引き出せないか?」そんな問いを抱える先生方と、探究の“次のステージ”と一緒に考える時間にしたいと思っています。学習指導要領の言葉を借りれば、“質の高い探究的な学び”の実現がテーマです。新指導要領が一巡した今こそ、広がった探究をどう深め、未来につなげるかを再考するチャンスです。教科との往還、教員チームの構築、生徒や教師の成長、組織の在り方――実践と理論を行き来しながら、探究の可能性をどうアップデートするか、一緒に考えていきましょう。



国語

東京

大阪

オンライン

板谷 大介

埼玉県立浦和第一女子高等学校 教諭

プロフィール 1966年、埼玉県生まれ。慶應義塾大学文学部卒。2000年より2011年まで母校の県立浦和高校に勤務し、当時低迷していた同校の進学実績を向上させた。2011年から現任校に勤務し進路指導体制を再建、3年間育成した令和5年卒業生では、東京大学に現役で5名、浪人で1名の合格者を出した。本校で現役5名の東大合格者を出したのは本校史上初である。著書に『古典が苦手な受験生に捧ぐ 板谷の古典文法』(桐原書店)などがある。

メッセージ 私は知識構成型ジグソー法(以下KCJ)による学校現場からの教育改革をライフワークのひとつにしています。KCJは「主体的・対話的で深い学び」を実現する極めて有効な手法です。もう10年近く、自分が担当する現代文のほぼすべての授業をKCJのみで実施し、生徒の国語力、特に思考力や論述力を顕著に向上させて来ました。今回の国語分科会では、ご参加の先生方に実際に私が作成したKCJの教材に取り組んでいただき、その良さを体感して頂きます(教材は、実際に本校で使用したものです)。その上で、最後に改めてこの手法のメリット等についてお話しします。先生方に役立つ資料も配布します。「論理国語」や「文学国語」など、現代文系の授業の進め方についてお悩みをお持ちの先生、授業をより活性化、活発化させたい、生徒の国語の学力の一層の向上を図りたい、と考えておられる先生に、是非ご参加いただきたいと思います。



情報

東京

大阪

オンライン

小原 格

東京都立国立高等学校 指導教諭

プロフィール 平成5年数学科教諭として入都、平成15年より情報科専任。中央教育審議会情報ワーキンググループ委員、平成21年および平成30年の高等学校情報科学学習指導要領改善協力者、国立教育政策研究所「評価規準・評価方法等の工夫改善に関する調査研究」協力者として、学習指導要領の改訂および評価の研究に携わる。情報処理学会教員免許更新講習会、各都道府県研修センターおよび研究会等で講師を担当。文部科学省検定済教科書や情報科教育法等の執筆。青山学院大学、電気通信大学非常勤講師。文部科学省学校DX戦略アドバイザーなど。

メッセージ 令和7年度大学入学共通テストにて「情報Ⅰ」が実施されました。各種メディア等でも大きく取り上げられ、情報科が「基礎・基本」の教科の1つとしてその内容とともに広く社会に認知されることとなりました。この講演では、情報科が掲げる「情報や情報技術を活用した問題解決」をどのように授業で行っているのか、また、その内容をどのように共通テストと結びつけているのか、という点を中心に、東京都立国立高等学校での授業実践を紹介していきたいと思います。特に、「コンピュータとプログラミング」および「データの活用」の部分については、生成AIの活用や共通テストの内容を踏まえた今後の内容についてもご紹介します。皆様のご参考になれば幸いです。